

## 計画に関するご意見等（パブリック・コメント）に対する回答

No	該当ページ	ご意見等	回答
1	71	<p>今後の方針のなかで、がんに対する健康増進プランでは、知識普及啓発とがん検診の普及活動を上げておられますが、がんに罹患する人が多くいるので、がんになっても、自分らしく人生を充実させ、自分らしい生活を継続できるような体制作り、支援対策も計画の中に盛り込んでいただきたい。健康に関するすべての相談窓口は、保健センターだと思いますので、がんについての相談窓口も掲げていたら、住民の安心につながると思います。</p>	<p>福崎町においても、がん対策は健康における大きな課題であり、予防や早期発見のみならず、がんに罹患した後も住み慣れた地域で安心して自分らしく生活を続けられる体制づくりは重要であると認識しています。</p> <p>現在、福崎町では「がん検診の実施」や「がんの知識の普及啓発」に加え、治療に伴う外見の変化を補完し社会参加を支援する「アピアランスサポート事業（ウィッグ等の購入費用助成）」を実施し、患者様のQOLの維持・向上に努めています。</p> <p>ご指摘いただいた相談窓口につきましては、保健センターが「健康に関する総合窓口」として、がんに関する不安や生活上の悩みについても広く相談を受け付けています。専門的な医療情報や就労支援などについては、相談内容に応じて、県のがん診療連携拠点病院に設置されている「がん相談支援センター」等の専門機関とも連携し、適切な支援につなぐための役割を果たしてまいります。</p> <p>今後は、本計画において、アピアランス支援の継続や、保健センターが相談窓口であることの周知をさらに強化し、がんになっても安心して暮らせるまちづくりを推進します。</p>
2	72	<p>運動習慣の場の提供への支援に対しては、各施設で行っているもの、ふくろう体操、グラウンドゴルフのほかに、地域住民が実施している運動や体操の教室についてどういう支援をするのか、予算がつくのか、広報活動をするのか？</p>	<p>本計画において、住民の皆様が主体となって行っている運動や体操の教室は、健康づくりの輪を広げる重要な活動であると認識しております。</p> <p>定期的な運動の継続は健康づくりにおいて重要であると考えており、健康ポイントの対象としております。個別の住民グループによる教室への直接的な予算支援等は実施しておりませんが、いただいたご意見は、今後、地域全体の健康づくりを推進していく上での貴重な参考とさせていただきます。</p>

No	該当ページ	ご意見等	回答
3	74	地域づくりにも関連していますが、上記の体操教室や集いの場などを保健センターは把握して、相談があれば紹介できるようにしておくが良いと思います。近所の教室には行きたくない人が、他の地区のふくろう体操に参加するのは難しいようなことを聞きました。	健康長生き事業の対象の後期高齢者を訪問の際には、通いの場等への参加の有無を尋ね、不参加の方には紹介しています。
4	98・100	こども園、学校での取り組みに、SOSを発信できる教育とありますが、子どもがSOSを発信するためには、それを受け止める、信頼できる大人の存在が重要です。命の大切さを、声を大にして訴えることより、ひとりひとりの子どもの声に、ゆっくりと丁寧に付き合う体験が必要で、それが自己肯定感につながる。スクールカウンセラーひとりでは無理。保育士、教員がゆとりをもって子どもに向き合える体制作りを入れていただきたい。	学校では学期毎に生活アンケートを実施し、それを受けた相談週間を設け、懇談を通して一人ひとりの児童生徒に向き合う等、相談しやすい場づくりに努めています。また、保健室では養護教諭が身体のみならず心の悩みにも丁寧に応じています。一方で、教職員自身がゆとりをもち児童生徒に向き合えるよう、業務量の削減や業務の効率化を図り、働きがいのある学校づくりを推進するため、教育職員に関する「業務量管理・健康確保措置実施計画」を策定中で、今後対策を講じていきます。
5	なし	福崎町社会福祉協議会だより「さるびあ」2026年1月号の尾崎町長、新年の挨拶で「人口減少は、ある程度受け入れざるを得ませんが、子育て支援の充実など魅力あるまちづくりを進め、人口減少をできるだけ緩やかにしていきたい」と書かれていましたが、その為にも子ども一人につき一万円、いや数千円でも国の児童手当にプラスすることを考えていただけませんか。医療費のときのように他市町村に先立って行っていただくと大変助かります。町の人口減少を食い止めることや未来への投資になると思います。	子育て世帯への支援充実は重要な課題であり、福崎町では子ども医療費助成の拡充や出産・子育て応援給付金事業、放課後児童クラブの運営、子育て相談体制の充実など、各種支援策に取り組んでおります。しかし、現在の財政状況を踏まえると児童手当の上乗せ支給は現時点で考えておりません。なお、令和8年度には小中学校の給食費無償化に向けて努力しております。限られた財源の中で、より効果的な施策を進めてまいります。